

伏見ルネッサンスプラン

～横大路から発信するまちづくり～



平成19年3月

横大路ルネッサンス・プロジェクト会議
京 都 市

目 次

第 1	はじめに	3
1	プラン策定の趣旨	3
2	プランの位置付け	3
3	プランの策定体制	4
第 2	横大路地域の現況と課題	5
1	京都の南の玄関口	5
2	徐々に減少する人口	5
3	製造業、運輸・通信業が中心の産業構造	5
4	主要幹線道路が集中するが公共交通は脆弱	6
5	地域の大部分を占める工業地域	6
6	環境関連施設が集積	7
7	小・中・高校が地域内に立地	7
8	桂川と宇治川に挟まれた豊かな自然環境	7
9	水陸の交通の要衝として栄えた歴史と変わりつつある現在 ...	8
10	住民間で意識に差がある地域コミュニティ	8
第 3	まちづくりの方針	9
1	基本理念	9
2	まちづくりの目標	9
第 4	取組の方向性	11
1	歴史・文教・住居地区	12
2	産業地区	13
3	産業・環境教育地区	14
第 5	プランの推進について	15
1	実施計画の検討	15
2	計画実現に向けた体制の構築	15

第1 はじめに

1 プラン策定の趣旨

「伏見ルネッサンスプラン」は、京都の南の玄関口と言える伏見区横大路地域の再生（ルネッサンス）を目指すまちづくり計画である。

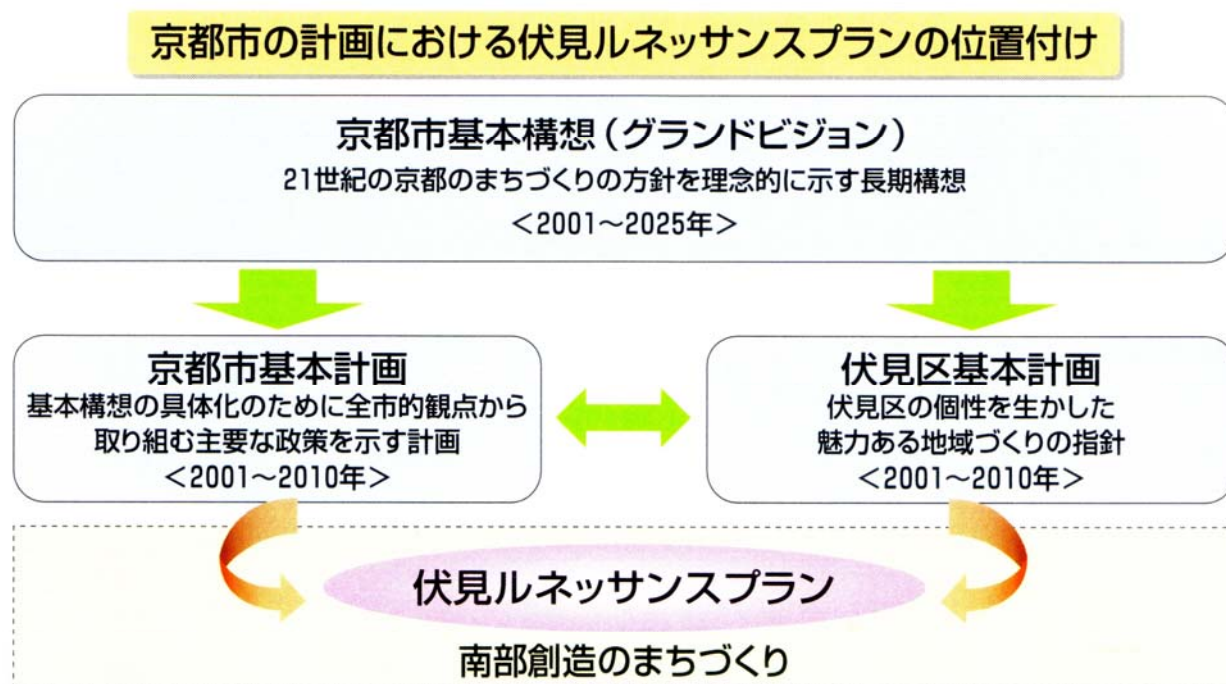
横大路地域には、クリーンセンター、水環境保全センター、産業廃棄物処理施設などの環境関連施設が多く立地し、主要幹線道路が集中している。これらは京都市民の生活や産業活動を支える重要な役割を担っているが、一方で地域住民の生活環境の改善が課題となっている。

このような背景のもと、平成17年2月に、地域住民は、その総意により「横大路環境憲章」を制定し、快適な生活環境を実現するための地域づくりを開始した。

これをきっかけに、地域住民と京都市は、平成18年6月、パートナーシップにより「横大路ルネッサンス・プロジェクト会議」を設置し、この「伏見ルネッサンスプラン」を策定した。今後は、20年後、30年後を展望した横大路地域の再生（ルネッサンス）を目指す取組を、地域住民と地域に立地する企業、京都市が協働して進めていくこととする。

2 プランの位置付け

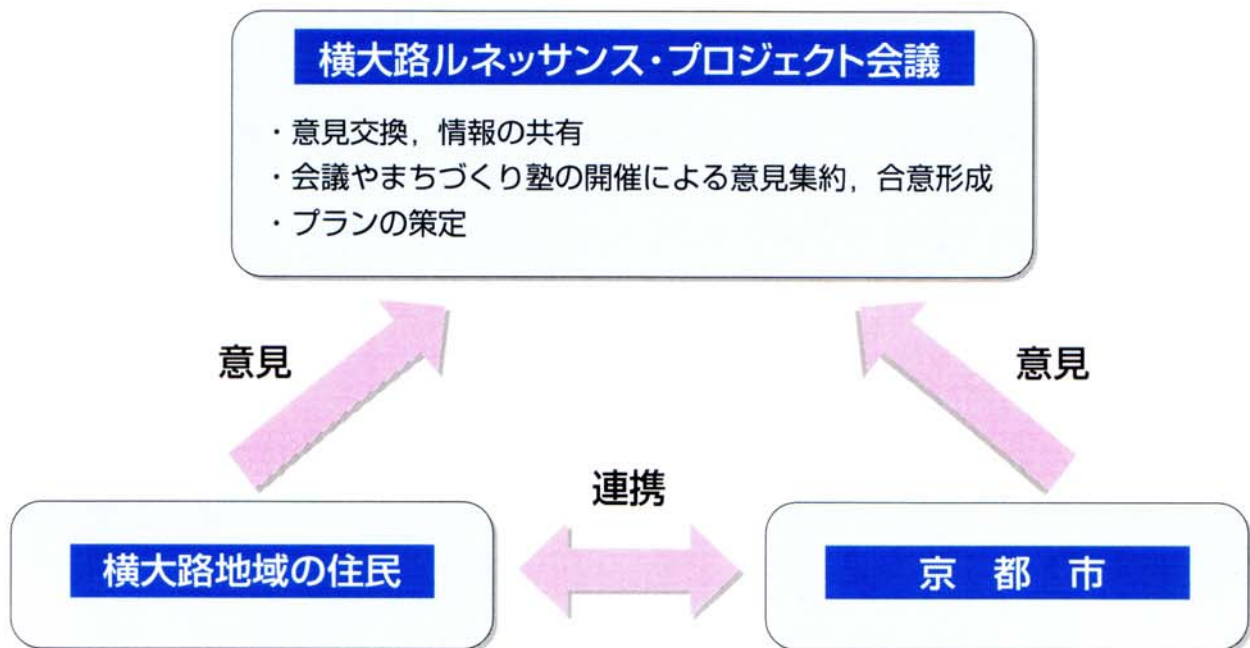
京都市南部地域の創造のまちづくりと呼応し、横大路地域の課題である都市基盤整備やクリーンセンターなどの環境関連施設との共生を進めることで、同地域だけでなく、伏見区、京都市南部地域の活性化を目指す。



3 プランの策定体制

「伏見ルネッサンスプラン」の策定にあたっては、横大路地域の住民と京都市が協働して設置した「横大路ルネッサンス・プロジェクト会議」において議論を重ねるとともに、住民の皆さんへのヒアリングやアンケート調査の実施、「横大路21世紀まちづくり塾」の開催などを通じ、幅広い意見集約を行った。

「横大路ルネッサンス・プロジェクト会議」は、横大路連合自治協議会のもとに設けられた横大路環境整備対策委員会の役員と、伏見区役所、総合企画局、環境局、文化市民局、産業観光局、都市計画局、建設局の1区6局により構成された。



第2 横大路地域の現況と課題

1 京都の南の玄関口

横大路地域は伏見区南西部に位置し、概ね、北は外環状線、南東は宇治川、南は淀競馬場、東は東高瀬川付近、西は桂川に囲まれた面積約3.839km²の地区である。

地域の中央部には幹線道路である府道京都守口線、国道1号、洛南道路が南北に走っており、京都の南の玄関口とも言える地域である。

概ね地域の東端と西端に住宅地が分かれ、その間の中央部は農地であったが、近年、市街化が進み、幹線道路沿いに工場や流通施設が広がる工業地帯となりつつある。特に北東部は高度集積地区に位置付けられ、付加価値の高い産業の集積が期待される。

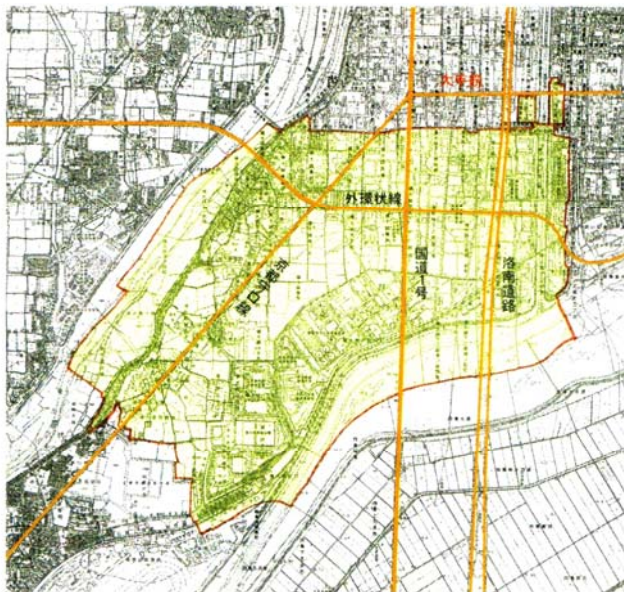


図-1 横大路地域の区域及び概況

2 徐々に減少する人口

平成17年国勢調査によると、人口は4,648人、世帯数は1,781世帯である。

戦後から人口増加が続いていたが、平成2年の5,373人をピークに徐々に減少している。

近年では子育て世代の流出による人口減少が目立ち、幼年人口の減少も顕著になっている。

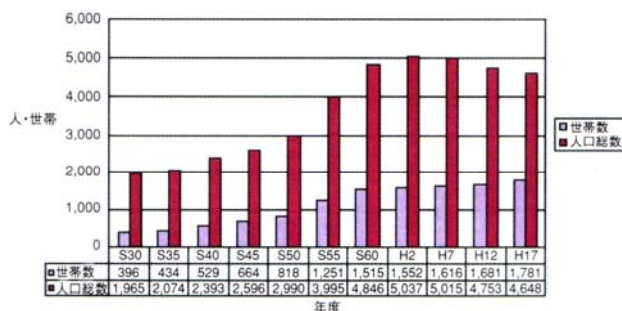


図-2 人口の推移

就業者は、平成12年時点で2,476人、うち、第2次産業就業者が約45%を占めており、製造業の就業者が他地域より比較的多くなっている。

3 製造業、運輸・通信業が中心の産業構造

平成13年事業所・企業統計調査によると、事業所数は416事業所、従業員数は6,819人である。従業者数で見ると、製造業が約34%を占め、次いで運輸・通信業が約25%と製造業と運輸・通信業で6割を超えている。

平成3年と比較すると、事業所数及び従業員数とも減少している。とりわけ、事業所数では製造業、卸・小売・飲食業が減少しており、従業員数では製造業及び運輸・通信業が減少し、サービス業の増加が目立つ。

4 主要幹線道路が集中するが公共交通は脆弱

地域内には、南北幹線道路として東から洛南道路（自動車専用道路京都高速道路油小路線の一般道路部）、国道1号、府道京都守口線が通っている。

東西道路は、地域の北側を観月橋から羽束師橋を経て長岡京へ向かう外環状線が通っているほか、地域内幹線道路として油掛通が伏見市街地と結んでいる。そのほか、地域の中央部では、土地区画整理事業による区画道路を整備中である。

平成19年1月に横大路地域の全世帯を対象に行ったアンケート（以下、「住民アンケート」と言う）では、特に交通量の多い幹線道路からの排気ガス、煤塵、騒音に加え、生活道路への大型車の進入が課題として指摘されている。

地域内には鉄道駅はなく、公共交通機関はバスのみである。バス路線は、中書島駅を起点とし、主要幹線道路を通るもの及び府道京都守口線を南北に運行するものがある。

住民アンケートでは、地域の問題点として交通の不便さを挙げた人が6割を超えている。

5 地域の大部分を占める工業地域

河川敷を除く市街地部分は、市街化区域である。用途地域は、桂川沿いに第一種住居地域が指定されているほかは、主に準工業地域及び工業地域など工業系の用途に指定され、京都市南部の工業地帯として位置付けられている。主に幹線道路沿いに食品加工業や流通業が立地し、淀工業団地には金属加工業などが立地している。

一方、工業地域、準工業地域内に立地する住宅との共存が課題になっている。

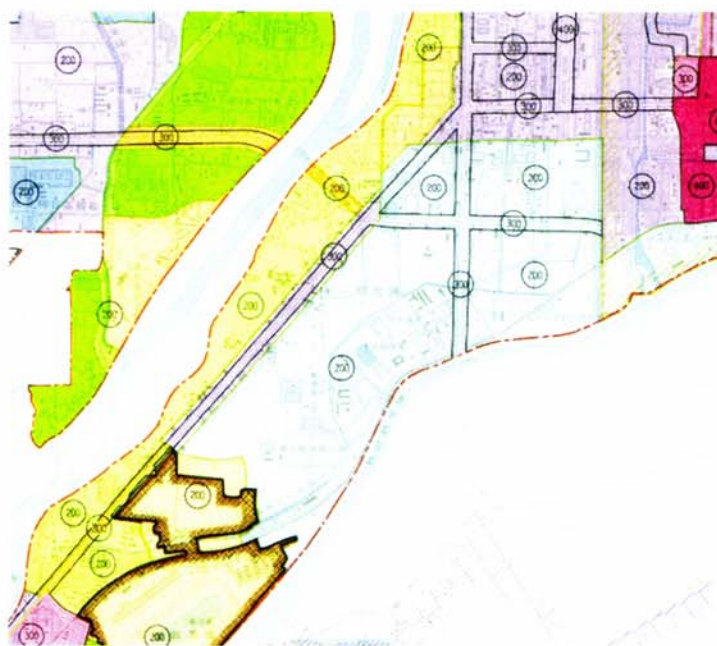


図-3 用途地域指定状況

第一種住居地域 First-Kind Residential District	第二種住居地域 Second-Kind Residential District	第三種住居地域 Third-Kind Residential District	近隣商業地域 Neighborhood Commercial District	商業地域 Commercial District	準工業地域 Quasi-Industrial District	工業地域 Industrial District	工業専用地域 Industrial Special Use District	用途地域界 Use District Boundary	容積率境界線 Capacity Rate Line	第一種住居専用地域 First-Kind Residential Special Use District	第二種住居専用地域 Second-Kind Residential Special Use District	第三種住居専用地域 Third-Kind Residential Special Use District	近隣商業専用地域 Neighborhood Commercial Special Use District	商業専用地域 Commercial Special Use District	準工業専用地域 Quasi-Industrial Special Use District	工業専用地域 Industrial Special Use District	工業専用地域 Industrial Special Use District	用途地域界 Use District Boundary	容積率境界線 Capacity Rate Line
--	---	--	--	-----------------------------	------------------------------------	-----------------------------	---	--------------------------------	------------------------------	--	---	--	--	---	--	---	---	--------------------------------	------------------------------

6 環境関連施設が集積

京都市が設置した市伏見水環境保全センター、市南部クリーンセンター第一工場及び第二工場、市南部資源リサイクルセンター、京都魚アラリサイクルセンターのほか、(株)京都環境保全公社・伏見環境保全センターをはじめとした民間の産業廃棄物処理施設やリサイクル施設など環境保全に関する施設が、宇治川沿いの千両松地区を中心として集積している。

住民アンケートでは、環境関連施設ばかりが原因ではないが、約半数が「公害」を感じており、そのうちの多くが悪臭を指摘している。

7 小・中・高校が地域内に立地

市立横大路小学校、市立洛水中学校、府立洛水高校がいずれも地域内に立地しており、横大路保育園、横大路児童館も立地している。

また、宇治川沿岸には京都大学防災研究所が立地している。

8 桂川と宇治川に挟まれた豊かな自然環境

市南部クリーンセンターの南に隣接して市横大路運動公園が設けられている。また、地域の西側を流れる桂川沿いは、その自然環境を生かした農地や緑地が広がり、堤防上には桂川サイクリングロードの京都・八幡・木津自転車道が整備されている。

一方、住民アンケートでは、約2割が水害の危険性を感じている。

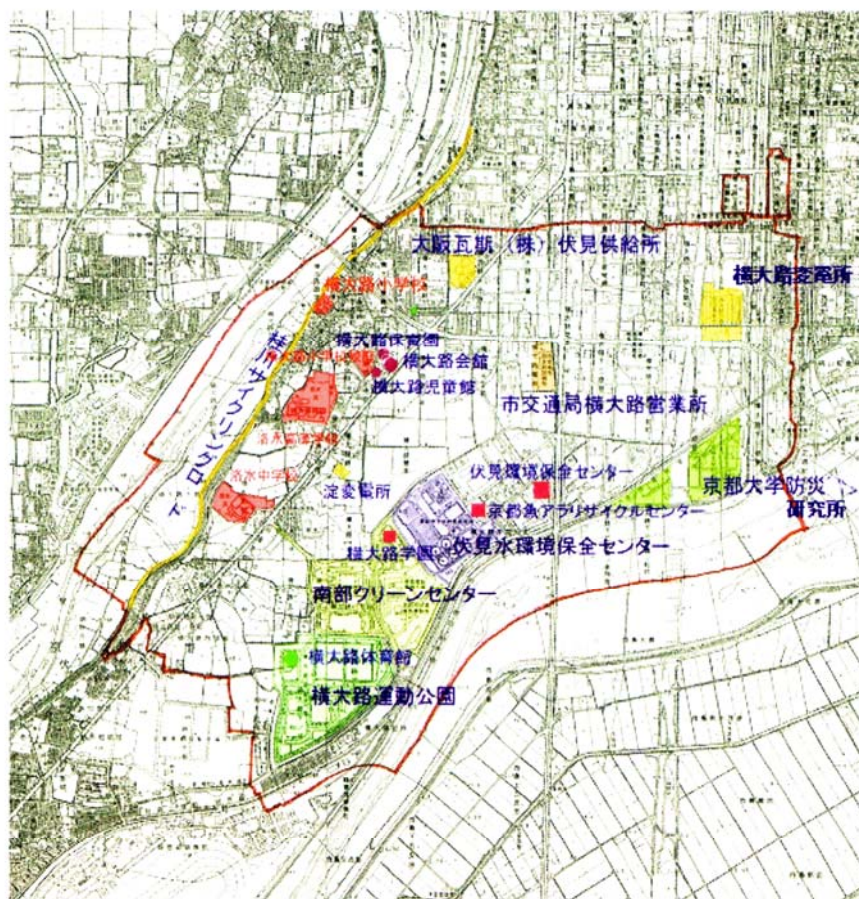


図-4 施設の立地状況

9 水陸の交通の要衝として栄えた歴史と変わりつつある現在

横大路地域は、平安時代から室町時代にかけて東福寺領の荘園として農業を中心とする地域であったが、同時に淀川水運の最北端の湊（草津湊）として平安京への物資の供給や人の往来の場所として栄えてきた。

また桂川の堤防沿いは、京の七口の一つである鳥羽口へ向かう鳥羽の造り道（現千本通り）が通る京都と大阪を結ぶ主要な地域であった。

近世に入ると、草津湊付近に魚市場が開かれていた。魚市場跡として羽東師橋東詰めに石碑が建つ。幕末には鳥羽伏見の戦いの戦場になるなど、日本の歴史における重要な舞台となり、現在、その史跡を見ることができる。



魚市場跡石碑

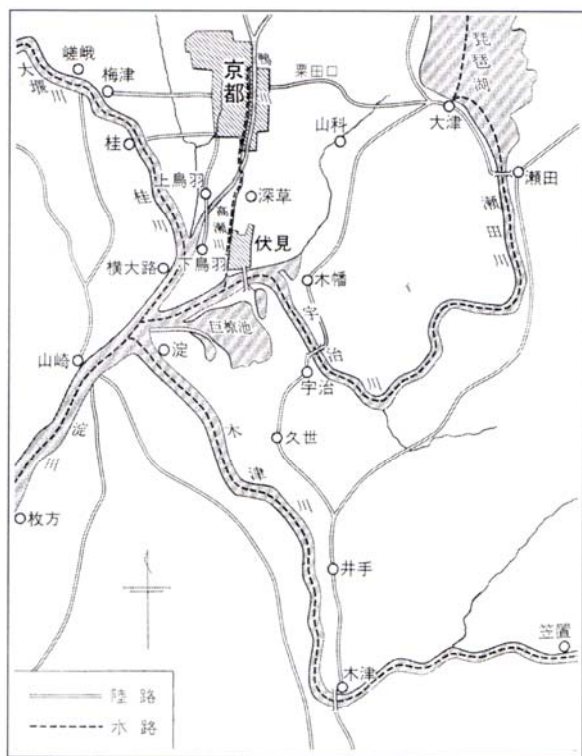


図-5 京都の船運 出典:「京都の歴史」第4巻(学芸書林)

昭和6年に旧伏見市などとともに京都市に編入され、国道1号線（現府道京都守口線）が開通、昭和11年には横大路塵芥焼却場が建設された。昭和48年には、伏見下水処理場（現伏見水環境保全センター）が建設され、伏見区全域の下水道整備が可能となった。

京都と大阪とを結ぶ幹線道路が早くから整備されていたこともあり、物流施設や沿道型商業施設などが進出するとともに、人家からある程度離れている地域が多いことや粗放的な土地利用もあって、産業廃棄物処理施設が集中立地するなどの状況が生まれた。

現在、土地区画整理事業が施行中であり、また主要幹線道路も整備が進んでいる状況から、農業地域から新たな都市的土地利用に転換される時期となっている。

10 住民間で意識に差がある地域コミュニティ

古くから横大路地域に住む高齢者は、自身の体験も含め、かつての地域の歴史に深い関心と誇りを持っているが、若い世代や新規に居住した住民層には、つい数十年前の横大路が華やかであった時代についての情報が十分に伝わっておらず、世代間、新旧住民間で地域への愛着や、まちづくりへの関心に差がある。自治会に加入していない住民を見られる。

しかし、住民アンケートによると、まちづくりやボランティア活動に参加している、もしくは参加意向がある回答者が約半数に上り、まちづくりへの関心は決して低くはない。

第3 まちづくりの方針

1 基本理念

輝かしい歴史を受け継ぎ21世紀を切り開く、
水と緑に富んだ人に優しい環境共生のまち 横大路

京都の南の玄関口として、また淀川水運や魚市場をはじめとする物流の拠点として京都市民の生活を支えてきた横大路地域の歴史を受け継ぎ、水と緑に恵まれた地域環境のなかで、人に優しく誇りある豊かな地域生活を送ることに加え、21世紀の主要課題である環境問題を切り開く活動が行われる環境共生のまちづくりを目指す。

桂川の豊かな水辺と田園の緑など豊かな自然環境を擁する地域でもあった横大路地域は、古くから宇治川・桂川の合流地点の豊かな農業地帯として栄えてきた。平安時代以降は京都の南の玄関口、京都に最も近い水運の拠点としても栄え、説話や幾つかの神社・仏閣などに見られるように往時の繁栄が今に残されている。

しかし、近代に入り、船運から鉄道や車による物流への変化、市街化の遅れなどにより、発展から取り残されたかにも見える。また、昭和初期の塵芥焼却場の建設以降は、京都市民の近代的都市生活を支える必須条件である廃棄物処理施設や下水処理施設等を多く引き受け、地域住民の生活環境の確保が課題になってきた。

一方、地球環境の危機に直面している今日、地球温暖化防止や循環型社会の構築を目指すためには、廃棄物問題は避けて通れない世界の共通課題となっている。

そこで、京都議定書誕生の地 京都市においては、環境関連施設の公害対策を万全のものにすることを前提とし、地域にとってはマイナスと考えられてきたこれら官民の環境関連施設の集積する地区を、21世紀の地球環境問題を解決し、市民が環境と共生する生活を学び、実践する拠点として、全国・世界に発信する地区とすることを目指す。

同時に、都市基盤の整った公害のない安心・安全で生活利便性の高い地域づくりを行うとともに、水と緑の豊かな自然環境と歴史的資源の活用を図り、これを地域住民の共通の誇りとするこゝとで強固な地域コミュニティを形成して持続的なまちづくり活動を行い、輝かしい横大路の歴史を受け継ぎ、21世紀を切り開く環境共生のまちとして発展させることを目指す。

2 まちづくりの目標

(1) 公害のない安心・安全なまちづくり

横大路に住む住民にとって、公害のない環境で安心して暮らすことは当然の望みである。地域に集積する廃棄物処理施設や幹線道路の車両などを原因とする各種公害を防止するとともに、環境関連施設が過度に集積しないよう適切な立地誘導等を行う。

また、交通事故や防犯、防災などへの対策を充実し、安全で安心して地域生活を送ることができる地域づくりを目指す。

＜目標を達成するための検討項目＞

- 環境関連施設の過度の集積に対する適切な立地誘導
- 公害の根絶
- 防犯・防災
- 交通安全

(2) 快適で利便性の高い生活環境づくり

土地区画整理事業による新たな住宅や産業施設の立地環境が整う中、若者から高齢者まで、また、居住者から地域で働く人までが暮らしやすい、公共交通が充実し、商業・医療・コミュニティ施設などが充実した利便性の高い生活環境をつくり上げる。

また、教育環境の充実、農・工業などの産業施設と調和した生活環境を目指す。

＜目標を達成するための検討項目＞

- 居住環境の整備による人口増加策
- 公共交通網の見直し・充実
- 生活利便性の向上
- 工業環境と生活環境の調和
- 教育・保育環境の整備
- 地域コミュニティ活動の拠点整備

(3) 水と緑豊かな自然と文化的環境を生かしたまちづくり

桂川の水辺環境や水田の緑、水路環境、地域の社寺林や企業林など自然環境資源を生かし、また輝かしい歴史資源など文化的環境を活用したまちづくりを目指す。

＜目標を達成するための検討項目＞

- 緑豊かな環境づくり
- 自然環境を生かしたまちづくり
- 歴史資源を活用したまちづくり活動の推進
- その他の地域資源を生かす取組の推進
- 農地・緑地の維持保全

(4) 世界に誇れる先進的地域づくり

幹線道路などが集まる京都の南の玄関口として、京都の文化と経済を担う企業、環境問題などに対し、先進的取組を行う企業の集積を目指し、世界に誇れる地域への脱皮を図る。

また、千両松地域にある既存の環境関連施設の集積地区についても、先進モデルとなるよう施設の高度化や環境美化を図り、「環境共生型都市・京都」の一翼を担う地区として位置付け直すとともに、環境教育のメッカとなるような整備を行い、全国・世界に発信する環境先進地区として発展させることを目指す。

＜目標を達成するための検討項目＞

- 京都を代表する先進産業地域づくり
- 総合環境学習ゾーンの整備

第4 取組の方向性

横大路地域は、地区の歴史や土地利用の状況によりまちづくりの目標が異なる。そのため、地区の特色に合わせ、以下の考え方にに基づき3つに区分して取組の方向性を定める。

- ・ 土地利用の状況、用途地域等の状況等から一体的地域として認識しうる区域
- ・ 共通の課題を擁し、一体的に扱う事が相応しい区域
- ・ 伏見ルネッサンスプランを策定するのに戦略的に方針を定めやすい一体的区域



図-6 地区 区分図

1 歴史・文教・住居地区（おおむね府道京都守口線の西側）

（1）地区の将来像

地域の歴史と文化を継承し、文教施設の充実する快適な住居地域の整備

（2）地区の特徴

横大路地域の人口が集中している地区であり、また輝かしい歴史を今に伝える社寺や史跡を擁する田園集落的環境も備えた地区である。

千本通り沿いには古くからの街道筋の建物が残り、かつての華やかな商店街の面影を残す店舗も点在している。今後、かつての草津湊や魚市場跡の整備などにより、歴史街道として脚光を浴びる地区への転換が可能である。

また、土地区画整理事業等により整備されたまちなみに、小学校・中学校・高校などの文教施設を適正に配置することによって、安心・安全な住宅地が形成される可能性がある。



桂川堤防の榎並木



千本通りのまちなみ

（3）取組の方向性

ア 快適で安心・安全な居住環境の整備

桂川沿いの緑地環境を生かすとともに、同地区に立地する文教施設を適正に配置し、住居系の土地利用を促進する快適な居住環境整備を行う。また、区画整理による幅員の広い都市計画道路の整備に伴い、公共交通を充実・整備するなど高齢者にとっても利便性の高い、安心・安全なまちづくりを進める。

イ 歴史的環境を生かしたまちづくりの推進

かつての繁栄を示す歴史的環境の保全や復元を進め、地区の歴史を継承する地域づくりを行う。地域の誇りと歴史認識を広めるため、観光をも視野に入れた「歴史街道」や草津湊の顕彰など地域環境づくりの取組を検討する。

ウ 地域コミュニティ活動の強化

歴史をキーワードとしながら、新旧住民の融和を進め、地域住民による地域コミュニティ活動の強化を図る。

2 産業地区（おおむね府道京都守口線の東側）

（1）地区の将来像

地域の特性を生かした京都の文化と経済を支える緑豊かな先進的工業ゾーンへの転換

（2）地区の特徴

概ね油小路通りから国道1号に至る地域は、既に土地区画整理事業により主要な道路が完成して、沿道にはロードサイド型店舗が立地するほか、京都を代表する食品加工業、その他著名な企業の工場、倉庫などの流通施設が立地しており、新規施設立地の余地が少なくなっている。

一方、国道1号から府道京都守口線にかけては、土地区画整理事業が進み、ほぼ道路が完成しているものの、まちづくりの明確な方針がないため、無秩序な土地利用が進みつつある。



府道沿いの工場

（3）取組の方向性

ア 先進的産業ゾーンの形成

京都を代表する食品加工業をはじめ、金属加工業や運輸・流通業の集積を土台とし、京都の文化と経済を担う先進的産業ゾーンとして、京都の玄関口に相応しい緑豊かな工業地域を形成する。

イ 住工共存のまちづくり

工業地域内の既存集落や「歴史・文教・住居地区」に隣接する幹線道路沿いの準工業地域などでは、地区計画等による工業立地に配慮した住環境の形成や、緑地等が整い、周辺環境に十分配慮した工場の立地等により、住生活と共存する工業ゾーンへの転換を目指す。

3 産業・環境教育地区（宇治川沿岸地域）

(1) 地区の将来像

既存の官民による環境関連施設の環境整備・高度化とそれらを教材とする環境研究・学習・教育・研修のメッカを形成

(2) 地区の特徴

宇治川に面する当該地区には、京都市民の快適な生活を支えるクリーンセンターや水環境保全センター、各種廃棄物の再生を図る官民の環境関連施設がまとまって立地しており、加えて大規模な公園や高い研究水準を誇る京都大学防災研究所などが立地するゾーンが形成されている。

この地区は、横大路地域の負のイメージをつくり上げたと言われているが、同時に将来を大きく転換する可能性を秘めたキーとなる地区である。地域住民にとっては今日まで負の施設と認識されていた環境関連施設を先進的環境教育活動を実践する施設と位置付け、イメージを逆転させる役割をもたせることができる。



南部クリーンセンター



南部資源リサイクルセンター

(3) 取組の方向性

ア 環境関連施設の改善，高度化と環境教育のメッカの形成

この地区に立地する官民の様々な環境関連施設の改善，高度化を行うとともに，それら施設を環境教育・環境学習の教材対象として位置付ける。また，研修施設や体験施設の誘致・設立なども検討し，環境教育のメッカを目指し，地球温暖化を防止するための京都議定書が採択された環境共生型都市・京都のシンボルゾーンとしての役割を果たす地区となるよう整備を進める。

イ 地区の総合的整備と施設の相互連携による先端的環境・防災研究ゾーンとしての発信

大規模な公共施設や世界的研究機関である京都大学防災研究所などを擁することから，地区の総合的整備や同研究所と地区内に立地する官民の環境関連施設との機能連携により，先端的環境・防災研究ゾーンとして世界に発信する。

ウ 市民に開かれた空間づくり

広く市民の関心と共感を得るためには，開かれた地区づくりと気軽に来訪できる空間づくりが重要である。横大路運動公園と一体化した環境をテーマとするテーマパーク的拠点づくりも考えられる。

第5 プランの推進について

横大路地域の再生を目指すには、今後、長期にわたる活動が必要であり、そのためには、地域コミュニティの活性化やまちづくりを進めるうえで中心となる推進組織を設けることが必要である。

そこで、地域住民が主体的にかかわることに加え、地域に立地する企業も地域づくりの主要メンバーとして位置付け、協働で「横大路まちづくり協議会（仮称）」を設立し、本プランに基づくまちづくりを推進する。

1 実施計画の検討

(1) 目標の実現に向けた具体的取組の検討

目標の実現に向けた具体的取組を検討し、重要度や優先順位、実施主体などを明確にする。

(2) 実施プログラムの作成

目標の実施に向けた具体的取組について、短期、中期、長期等の実現時期の目標を明確にし、取組のプログラムを明確にする。

(3) 計画の進行管理のための点検・評価体制

実施計画の進行状況について点検・評価する仕組みを検討する。

2 計画実現に向けた体制の構築

(1) 本プランの周知とまちづくりの気運の醸成

ア シンポジウムの開催や「横大路21世紀まちづくり塾」の継続開催

(2) 地元の活動体制の構築

ア 企業も参加する地域づくり組織「横大路まちづくり協議会（仮称）」の設立

イ まちづくりの担い手を積極的に組織化し、地域活動を担う人材の育成

(3) 持続的活動を行うための経済基盤の確立

ア 各種まちづくり活動組織の運営に関する事例の収集・研究

イ 活動資金等を確保するための方法等の研究

<横大路ルネッサンス・プロジェクト会議名簿>

（敬称略 平成19年3月現在）

氏 名	役 職 等	氏 名	役 職 等
(アドバイザー)		高橋 修	環境局長
リム・ボン	立命館大学教授	上田 典男	環境局適正処理施設部長
大島 祥子	一級建築士・技術士	久間 正純	環境局適正処理施設部担当部長
(地元)		新喜 富雄	環境局適正処理施設部管理課長
浪谷勇三郎	横大路環境整備対策委員会会長 横大路連合自治協議会会長	渡邊 茂	環境局適正処理施設部管理課担当課長
榎 彰徳	横大路環境整備対策委員会副会長	池澤 喜博	環境局適正処理施設部施設建設課長
西野 寛	横大路環境整備対策委員会副会長	高木 博司	環境局循環型社会推進部長
林 英雄	横大路環境整備対策委員会庶務	瀬川 道信	環境局循環型社会推進部循環企画課長
小袋 芳明	横大路環境整備対策委員会会計	二木 久雄	環境局循環型社会推進部廃棄物指導課長
馬淵 太郎	横大路環境整備対策委員会幹事	田尻 優一	文化市民局市民生活部地域づくり推進課長
坂口 芳治	横大路環境整備対策委員会幹事	西尾 淳一	文化市民局共同参画社会推進部文化市民総務課担当課長
(京都市)		東村 昌樹	産業観光局商工部産業振興課長
水田 雅博	伏見区長	田辺 真人	都市計画局都市企画部長
佐々木茂子	伏見区副区長	松田 彰	都市計画局都市企画部都市計画課長
池田 雅一	伏見区役所区民部総務課長	山本 耕治	都市計画局都市企画部都市づくり推進課長
高田 民義	伏見区役所区民部まちづくり推進課長	奥 美里	(財)京都市景観・まちづくりセンター事務局長
安河内 博	総合企画局政策推進室政策調整課担当課長	井原 昭彦	建設局都市整備部区画整理課長
		前祖 尚	建設局都市整備部南部区画整理事務所長
		(コンサルタント)	
		道家駿太郎	株式会社居住文化研究所 主任研究員

伏見ルネッサンスプラン

発行 京都市伏見区役所区民部総務課
〒612-8511 京都市伏見区東組町681
TEL075-611-1101(代) FAX075-611-4716

R100

当紙は全量100%再生紙を使用しています。



発行 京都市伏見区役所区民部総務課
京都市印刷物番号 第183223号